

理想の自分を求めて

～もう過去は振り返らない～

立身編



本当の自分を追い求める 寄田幸司

はじめに

こんにちはヨリタ歯科クリニック 院長 寄田幸司です。
今回の小冊子のテーマは「理想の自分を求めて」です。
私が思う「理想の自分」とは、例えばこんな感じです。

- ・常に前向きで、どんなに苦しい事、つらい事があっても、
プラス思考で乗り切る私
- ・いつも笑顔で自分の感情ををぐっと押さえる事が出来る私
- ・高い志と夢をいつも持ち続けている私。そして夢をメンバー全員と
共有する事が出来、強いリーダーシップを持った私
- ・メンバーの厚い信頼と、尊敬の言葉

例えば「こんな医院で働きたかった」「こんな院長に出会えて良かった」を
いつもいろんな
でも現実には全く出来て
シーンで聞いている私
いない私がここにいます。



そして、賢明なあなたなら「この小冊子は、理想の自分に近づくため、今私が
どんな事を考え、実行しているのかを、自信満々に話す内容なのか」と
想像しているのではないのでしょうか。

人の自慢話ほど、聞きたくない、読みたくないものはありません。
私もそんな、誰も読まない小冊子を書く気は毛頭ありません。
では今回、何を話すのか。

高校、大学時代を振り返って、今の私とは少し違う、
もう一人の真の私に迫ってみたいと思います。
御興味のあるあなたは、最後までお読み下さい。

なぜ今あなたにこんな真面目な話をするのでしょうか

よく患者様から「**なぜ先生は歯科医師の道に進んだのですか**」
と、聞かれる事があります。

その時は必ず「**小さい頃から手先が器用だったからです**」とか
「**国家資格のある職業に就き、自分をためしたかった**」

など、エリート官僚のような答えをしていました。

まるで私が選ばれし者であるかのように。

それはもちろん嘘ではありません。本当の事です。

しかし、**真実は少し違っています**。と、いうのも、これを話すと
私がいかにいいかげんな人間であるかバレてしまうので
今まで決して他言しませんでした。今回は、その真相をお話します。



バレバレの写真です

いつもメンバーの前では**夢や情熱などを熱く(?) 語っている私**が、
実はこんな事があって歯科医師になっていたとは。

そのあきれ顔を見るのが怖くて今まで誰にも話してません。

もちろん妻にも話しておりません（妻も歯科医師なので、軽蔑されるに決まっています）
では何故この場に及んであなたにお話するのか。

- ・ **歯科医師の仕事にやりがいを見出せなくなった**
- ・ **以前本当にしたかった夢の実現のため、残りの人生をかける**

そんな重大な理由などありません。

ただ一言で表現すると、「**魔がさした**」そんな感じでしょうか。

歯科医師になる前の私の夢

カッコ良く言うと、**自分に素直に生きる、過去の清算をする…。**

ウーン、この表現、あまり自分らしくありません。

要するにやっぱり魔がさしただけです。

話はもう少し過去にさかのぼります。まずあなたに歯科医師になる前の私の夢を聞いて下さい。

実は**設計士（建築家）**になろうと思っていました（サラッと言いました）

たまたま、いところが設計事務所を開いていて、その仕事ぶりがカッコ良かったからだけではありません。

そしてただ単にデザイン重視の自己満足の家を建てたかったからでもありません。

私の考えていた理想の設計士像とは。

**家族の愛情、夢、心のきずななど、
目に見えないものを形にする事が出来る職業。**

そして日常の生活様式や、考え方、その人が持つ世界観なども凶面を通して表現出来る設計士です。

**家族の安らぎと、幸せに満ちた、世界に一つだけの空間を
時間をかけてプロデュースする設計士、それが私の夢でした。**



高校時代の私です

実は最近その夢もある意味、実現することが出来ました。

私が設計した作品が完成しました。

その作品とは、そうです、今あなたがいるココ、**ヨリタ歯科クリニック**です。

改装後の医院には、**私の思い**がいたるところに込められています。

新しい夢に出会うまで

①道場に連れていかれて

それでは何故私の夢が、**設計士（建築家）**から歯科医師へ大きく変わったのか。まず変わった時点（瞬間の方が正しいかも）ですが、今でも明確に覚えています。

それは、私が**高校3年生の冬**。

すなわち**1979年1月14日**。時間は**夕方4：30**くらい。

場所は高校の教室（3年9組）です。その時起こったある出来事がそれからの私の運命を変えました。

話を進める前に、ちょっとあなたに知っておいてもらいたい事があります。

私は高校、大学（岡山大学）と、硬式テニスをしておりました。

しかし、私はテニスがしたくて入部したのではありません。

それどころか、部活をしようとも思っていませんでした。

そんな私がなぜテニス部に入ったのか、その理由をあなたにお話します。



柔道をしていた頃の写真です(?)

入学した3日後の昼休み、校庭を歩いていると、体のデカイ3年生3人に突然囲われました。

小心者の私の肩に手を掛け、「**君、エ〜体してるから柔道部入るよな！半年で黒帯にさしたるさかい**」と。

そして、そのまま道場へと、連行されてしまいました。

その日の放課後から**裸足での運動場のランニングと、受身のけいこ**が始まりました。

「**エッ私が、私が柔道、耳つぶれる！臭い！がにまたになるし〜最悪**」

というくらい気持ちで2週間が経とうとしていました。

新しい夢に出会うまで

②テニス部に入部して

そんなある日、道場からふと外を見るとテニスコートがありました。そして口から出任せに「**以前からどうしてもテニスがしたかったんです。その気持ちは今でも断ち切る事は出来ません。やはり初心に戻ってテニスをやりたいと思います**」

と、話しました（今の現実から逃れたい一心で）
と、ということで、テニス部に入ることになりました。

テニスは上流階級や、女の子のスポーツ

（当時はまだそんなイメージがありました）だと、たかをくくっていました。しかし、実際やると、かなり奥が深く（私に才能がないだけ）アツという間にはまってしまいました。それが、テニスとの出会いです。今となっては、テニスに出会えたことで、多くの素晴らしい先輩・後輩と知り合うことが出来ました。運命のイタズラと言わざるをえません。



テニス部の友人たちと（右から2番目）



応援団に入って（右から2番目）

しかしその当時の私は、なんと、**優柔不断、その場しのぎ、行き当たりバッタリ**なことか。

今の毅然とした態度の私を知っているあなたには、想像もつかないと思います。もともと持っているそのいいかげんな性格が、私の将来を大きく変える要因になりました。

その後、テニスに明け暮れた高校3年間を過ごすことになりました。

そして将来の夢は“**家族の安らぎと幸せに満ちた空間をプロデュースするスーパー設計士**”です。あの時を迎えるまでは。

新しい夢に出会うまで

③運命の日を迎えて

運命の日を迎える前の二日間、私は大学入試一次試験に挑みました。

前年より、大学受験の制度が大きく変わっていました。

共通一次試験（今の共通テストとは全く違います）という、**国公立共通テスト（本番）**の志望校が、その試験の結果により、ほとんど決められてしまうのです。

私の共通一次試験の成績は、予想に反してかなり悪いものでした。

自己採点により、これが判明したのが、**1月14日のお昼**でした。

私の第一志望の国立大学工学部建築学科は、まず不可能という結果でした。

私はそれからの記憶は定かではありません。

気付いた時には、**私の手の中にはなぜか岡山大学歯科部の願書**がありました。

あなたは「**そんなアホな〜**」と、思うかも知れませんが、事実です。

繰り返します。**その間の記憶が全く飛んでしまったのです。**



大学時代の私です

実は私の運命を変えたこの出来事も、私の意志ではありませんでした。

と、言いますか、あの時の私には、自分で判断し、行動する勇気と気力が全くありませんでした。

それでは、ここでその願書を私に渡したという同級生の手紙をお読み下さい。

私の運命を変えた友の手紙

「ヨリタマニアの皆様、はじめまして、山田豊和といたします。
私は**寄田君の中学校、高校時代の同級生**で、高校3年生の時は
3年9組で同じクラスでした。

私はその後、大阪大学歯科部を優秀な成績で卒業し、現在堺市にて歯科医院を開業しています。
自分で言うのも何ですが、結構ハヤッテいます。ハッハッハッ。

実はもう25年も前の話なので、詳しくは憶えていません。

まあ、私には大したことはありませんので。

あ～確かにあの時、**寄田君に岡山大学歯学部**の願書を渡したのは私です。
そうです、あの願書はもう私には必要ないと思ったので。

何故って？イヤ～共通一次試験の結果が良かったので、
ワンランク上の大学を受けることにしました。

放課後、教室を出ようとした私の前に、偶然**ポッカリと大きな口を開け、
窓越しに一人たたずむ、親友の寄田君**がいました。

声をかける雰囲気ではなかったので、たまたま持っていた願書をその口、いや、
間違いました、その手に渡しました。もちろん、励ましの言葉も添えました。
だって親友ですから。え～なんだっけなあ～

『明日の来ない今日はない、今を精一杯生きることが大切だぞ』
こんな感じでしょうか。

今思えば素直な寄田君は、私のあの言葉をワラをもすがる思いで信じていたのでしょうか。
根がマジメですから。

え～最後に歯でお悩みの方は親切丁寧、そして親友思いの堺の山田歯科へ
是非お越し下さい（チョット遠いですが）」

新しい夢の実現に向けて

それがどうもあの空白の二時間の真相のようです。

ですから今でもあのエリート歯科医師の山田君には頭が上がりません。

我に返った私の手には、しっかり**夢の片道切符（願書）**が握りしめられていました。

そして私はその足で職員室に向かいました。

そして吹っ切れた気持ちで、

「先生、岡山大学を受けようと思います。どうでしょうか？」

担任の貝谷（カイトニ）先生も「そうか、一次試験の成績はあまり良くなかったみたいだな。

しかし、**岡山大学なら合格ラインだ。先生も応援するぞ**」

そう力強く言ってくれたのを、はっきり憶えています

（その言葉が私を後押ししてくれました）

そして納得の上で受験することになりました（ある一つの行き違いを除いて）

それは小さな行き違いでしたが、将来を考えれば全く違う人生が待っていました。

それは**歯学部**と、**工学部建築学科**の違いです

（先生はもちろん工学部を受けると信じていました）

私はこれは何かの縁、神様のおぼし召しかと思い、乗りかけた舟、

素直に歯学部を受験しました。



歯科医師の卵の私です

これは誠に**私の優柔不断さ、イイかげんさ、行き当たりバッタリ、**

良く言えば**臨機応変、変化自在**とでも言いましょうか。

あまり深く考えない得な性格（？）が成せるワザかもしれません。

私の夢が実現する日

合格後、貝谷先生からお祝いの言葉がありました。

「成功する人はどんな分野でも成功する。

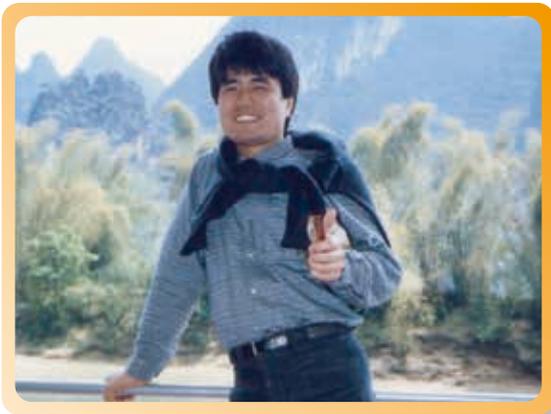
私は一年前から責任感があり、他人の痛みや苦しみが分かる、君は歯科医師に向いていると思っていたよ！」と。

それが、今診療室であなたに自信たっぷりにお話をさせて頂いている私の

25年前の1月14日の出来事です。

その後、6年間岡山大学で、相変わらずテニスをしながら、

大学時代をエンジョイしました。



大学の修学旅行で中国に行ってきました

学生時代、私の考えていた理想の歯科医師像とは。

ただ単にむし歯や歯槽膿漏を治療する、そんなお口の中だけを見る歯科医師にはなりたくありませんでした。

お口を通して、**その人を見る、その人の生活習慣を見る、**

その人の家族を見る、その人の住む地域を見る、

こんな広い視野に立つ歯科医師になろうと決意していました。

そんな志を抱き、**1987年、大阪に帰って来ました。**

私の歯科医師としてのスタートは、天王寺の**小室歯科医院**。

4月1日、私の夢が実現した日です。

おわりに

ここまでお読み頂き、本当に有難うございます。

「理想の自分を求めて 立身編」

あなたはどのように感じましたでしょうか。

いつもの私の変な文章なので、少しでもだけ感じになってしまいましたが、

私の気持ちは、チョー真面目です。

今まで心の中で、モヤモヤしていたことが、

ヨリタマニアのあなたに聞いて頂いたお陰でスッキリしましたが、

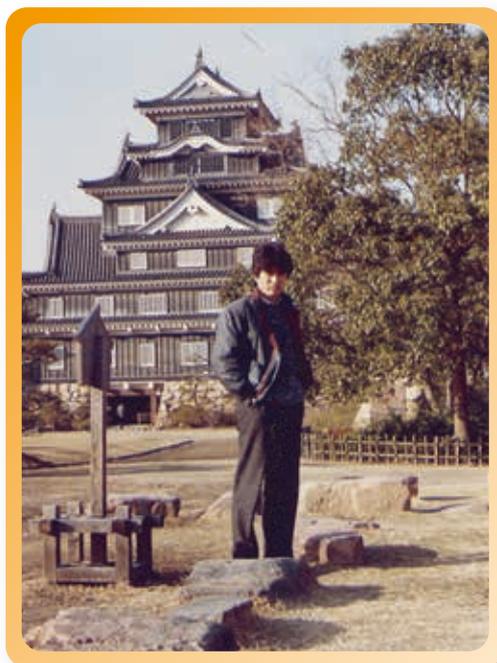
今後さらにフランクに接していける、心の想いを打ち明けられるような気がしています。

“ウム、まさか!?”

私を良く知っているあなたなら“ピピッ”っときたかもしれません。

「そうです、正解です」

「理想の自分を求めて」には**続編**があります。



岡山城を背にして立つ若き日の私です

私のさらなる心の叫びを是非お聞き頂きたいと思っています。

私はこの熱い気持ちが冷めないうちにお伝えします。

私の卒業後の愛と希望に満ちた理想の自分を求める旅へ、あなたをお連れします。

もっともっと私を知って頂きたい 寄田幸司